

株式会社 都市環境 環境経営レポート

対象期間（2021年6月～2022年5月）編



2022年 9月1日発行（2021年度版）

もくじ

1	組織の概要	1
2	認証・登録対象範囲	1
3	情報開示項目	1～3
4	環境経営方針	4
5	環境経営目標とその実績及び評価	5～10
6	環境経営計画及びその取組結果とその評価	11～13
7	環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	14～15
8	代表者による全体評価と見直しの結果	16
9	次年度の環境経営目標	17
10	次年度の環境経営計画	18～20

1. 組織の概要

(1) 事業場名及び代表者

株式会社都市環境 代表取締役 齋藤 高照

(2) 所在地

本社・資材置場 〒957-0062 新潟県 新発田市 富塚町 2丁目1002番地

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先 : 電話 0254-22-6337 FAX 0254-23-6308

環境管理責任者 常務取締役 齋藤 剛寛 E-mail Saito-t@toshikankyo.com

事務局担当者 専務取締役 小林 勝彦 E-mail kobayashi@toshikankyo.com

(4) 事業内容

ア 浄化槽清掃業、イ 浄化槽保守点検業、ウ 産業廃棄物収集運搬業、エ 一般廃棄物収集運搬業、
オ 一般建設業(土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、解体、電気工事業)
カ 下水道処理施設管理業、キ 工業薬品の販売、ク 建築物貯水槽清掃業、
ケ 建築物排水管清掃業、コ 道路側溝等清掃業務、サ 無人航空機による農薬散布業務

2. 認証・登録対象範囲

株式会社都市環境の全組織、全活動

3. 情報開示項目

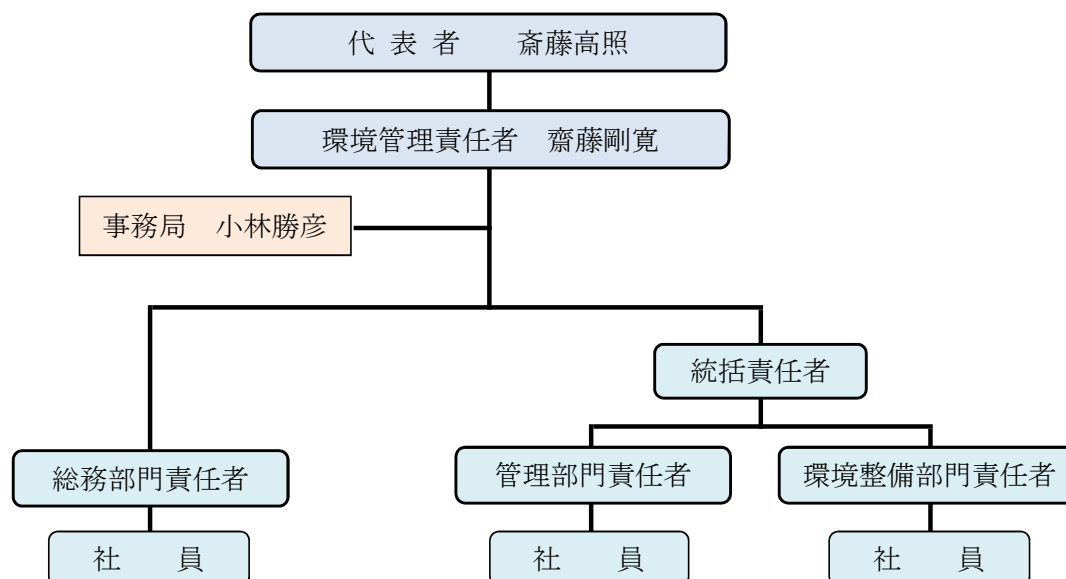
(1) 法人設立年月日 : 1983年9月28日(創業 1958年)

(2) 資本金 : 1,500 万円

(3) 事業規模

活動規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度
従業員数	人	64	62	64
売上高	百万円	671	664	697
本社床面積	m ²	283.5	283.5	283.5

(4) EA21 実施体制図



(5) 許可の内容

① 産業廃棄物収集運搬業

【新潟県】

許可番号	01501034436		
許可年月日～有効期限	2015年10月30日～2022年9月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管を除く。） 廃プラスチック類、木くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有ばいじん等を除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台	トラック車 3t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	強力吸引車 5t 1台	ダンプトラック車 2t 1台	
	強力吸引車 4t 1台	塵芥車 2t 1台	
	コンテナ車 4t 1台	普通貨物車 1t 2台	
	バキューム車 3t 2台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2021年度	2,436.9 t	

【山形県】

許可番号	0609034436		
許可年月日～有効期限	2022年5月31日～2028年5月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管なし。） 汚泥（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台	強力吸引車 4t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	強力吸引車 5t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2021年度	17.2 t	

② 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環第 608号 - 2		
許可年月日～有効期限	2021年8月1日～2023年7月31日		
事業計画の概要	一般廃棄物の収集運搬		
取扱廃棄物の種類	事業活動により生じる一般廃棄物及び一般家庭から一時的に大量に出るごみ 収集・運搬（積替え・保管を含む。）		
施設等の状況	積替え・保管面積 37.6 m ²	保管上限量 72.4 m ³	
	コンテナ車 4t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	ダンプトラック車 2t 1台	塵芥車 2t 1台	
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2021年度	20.8 t	

③ 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環第 2093号 - 2		
許可年月日～有効期限	2022年4月1日～2024年3月31日		
取扱廃棄物の種類	浄化槽汚泥 収集・運搬		
施設等の状況	バキューム車 3t 6台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2021年度	8,458.1 m ³	

④ 一般建設業【新潟県】

許可番号	第 2 1 6 3 1 号	
許可年月日～有効期限	2022年1月17日～2026年1月16日	
建設業の種類	土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、電気、解体工事業	
工事实績（年度は6月～翌年5月）	2021 年度	70 件

注) 1. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

株式会社都市環境 環境経営方針

<環境理念>

株式会社都市環境は、飯豊連峰を源とする清流加治川の恩恵を受けた緑豊かなこの地で、『人とより良い環境の共生を求めて』をモットーに、浄化槽保守点検業務、公共下水道関連業務、廃棄物収集運搬業務などの環境関連業務を営んでおります。企業としての活動が二酸化炭素の排出などにより地域及び地球環境に一定の影響を与えていること及び当社の事業活動を踏まえ、温暖化の防止や水環境の保全に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指して以下の項目を継続的に取り組んでいくことを誓約します。

<行動指針>

1. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、活動を行うとともに環境経営の継続的な改善に努めます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
電力の消費や業務車両の燃料消費などに伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物排出量の削減
廃棄物排出量の抑制に努めます。
 - ③ 総排水量の削減
水使用量の節約に努めます。
 - ④ 化学物質の適正使用及び管理
化学物質の適正使用及び管理に努めます。
 - ⑤ 業務を通じた環境活動の推進
受託廃棄物のリサイクル率の向上や水質浄化業務を推進します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 本環境経営方針は、全ての従業員に周知します。

制定日：2014年6月1日

改定日：2019年8月5日

代表取締役 齋藤高照

5. 環境経営目標とその実績及び評価

(1) 環境経営目標

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用。

項 目	単 位	基準実績値 (過去3箇年平均)	目 標 値				
			(△ 増加・▽ 削減)				
			2020年度	2021年度	2022年度		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh	44,397	44,264	44,131	43,997	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	13.15	13.19	13.23	13.27
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		全 体	km/ℓ	(4.04)	(4.05)	(4.06)	(4.07)
			改善率				
		バキューム車	km/ℓ	5.62	5.64	5.65	5.67
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		強力吸引車	km/ℓ	1.92	1.93	1.93	1.94
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		高压洗浄車	km/ℓ	3.55	3.56	3.57	3.58
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
	他 作業車	km/ℓ	5.98	6.00	6.02	6.03	
改善率			△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%		
二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	306,285	-	-	-	
水道使用量の削減	全 体	m ³	(601)	(599)	(597)	(596)	
		削減率					
	事 務 所	m ³	241	240	240	239	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	作 業 用	m ³	360	359	358	357	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進	再資源化率	51.8	52.8	53.3	53.8		
	%		△ 1.0%	△ 1.5%	△ 2.0%		
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	再資源化率	52.8	53.8	54.3	54.8		
	%		△ 1.0%	△ 1.5%	△ 2.0%		
可燃一般廃棄物の排出量の削減	kg	1,619	1,614	1,609	1,604		
	削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%		
資格取得の推進	取得者数	-	3	3	3		
	人						

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正使用及び管理に努める。
 2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
 3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
 4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
 5. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に努める。
 6. 基準実績値(過去3箇年平均)とは、2017年度～2019年度(6月～翌年5月)である。

(2) 環境経営目標と実績 (対象期間2021年6月～2022年5月)

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用。

項 目		単 位	基準実績値 (過去3箇年平均)	2021年度 (△増加 ▽削減)			
				(△・▽目標達成、▲・▼目標未達成)			
				目標値	実績値	実績評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh	44,397	44,131	49,775	×	
		削減率		▽ 0.6%	▲ 12.1%		
	ガソリン車	km/ℓ	13.15	13.23	13.25	○	
		改善率		△ 0.6%	△ 0.8%		
		走行距離 km	456,509	-	410,315		-
		燃料使用量 ℓ	34,724	-	30,959		
	全 体	km/ℓ	(4.04)	(4.06)	4.00	-	
		改善率		-	-		
		走行距離 km	311,512	-	333,486		
		燃料使用量 ℓ	77,029	-	83,447		
	バキューム車	km/ℓ	5.62	5.65	5.71	○	
		改善率		△ 0.6%	△ 1.6%		
		走行距離 km	122,322	-	119,450		-
		燃料使用量 ℓ	21,772	-	20,926		
	強力吸引車	km/ℓ	1.92	1.93	1.95	○	
		改善率		△ 0.6%	△ 1.8%		
		走行距離 km	50,964	-	70,099		-
		燃料使用量 ℓ	26,528	-	35,875		
	高压洗浄車	km/ℓ	3.55	3.57	3.73	○	
		改善率		△ 0.6%	△ 5.0%		
		走行距離 km	49,171	-	38,201		-
		燃料使用量 ℓ	13,842	-	10,244		
	他 作業車	km/ℓ	5.98	6.02	6.45	○	
		改善率		△ 0.6%	△ 7.8%		
		走行距離 km	89,055	-	105,736		-
		燃料使用量 ℓ	14,887	-	16,403		
二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	306,285	-	315,276	-	
水道使用量の削減	全 体	m ³	(601)	(597)	553.2	-	
		削減率		-	-		
	事 務 所	m ³	241	240	235.6	○	
		削減率		▽ 0.6%	▽ 2.1%		
作 業 用	m ³	360	358	317.6	○		
	削減率		▽ 0.6%	▽ 11.7%			
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進		再資源化率	51.8	53.3	64.6	○	
		%		△ 1.5%	△ 12.8%		
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率	52.8	54.3	65.5	○	
		%		△ 1.5%	△ 12.7%		
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg	1,619	1,609	1,500	○	
		削減率		▽ 0.6%	▽ 7.4%		
資格取得の推進		取得者数	-	3	10	○	
		人		-	-		

(4) 環境経営目標と実績の評価

対象期間(2021年6月～2022年5月)の環境経営目標の実績の評価は以下のとおりです。

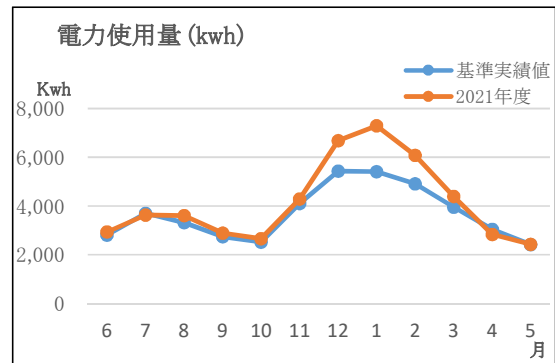
なお、以降記述する基準実績値とは2017年度から2019年度の「3箇年度平均実績値」を示す。

1) 電力使用量の削減

環境経営目標は、基準実績値を基に44,397kwhの0.6%削減で44,131kwhと設定をした。

実績では49,775kwhで12.1%の増加となり未達成となったが、右のグラフから冬期間(12月～2月)の使用量が大きく影響しており、これは降雪による消雪井戸ポンプの稼働が要因と推察できる。

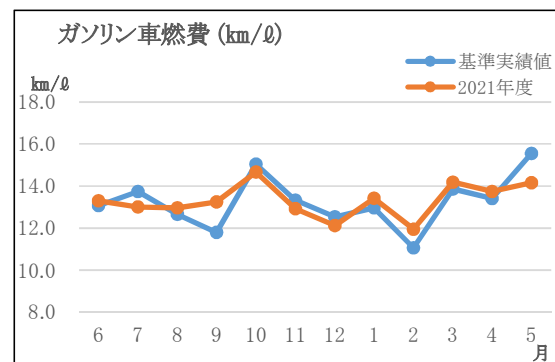
しかし、冬期間(12月～2月)を除いた9箇月で基準実績値と比較しても1,086kwh(3.8%)の増加となっていることから、今後も使用量の削減には一層の努力が必要である。



2) ガソリン車両の燃費改善

環境経営目標は、基準実績値を基に13.15km/ℓの0.6%改善で13.23km/ℓ以上と設定し、実績は0.8%改善の13.25km/ℓと目標を達成することができた。

また、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると走行距離で46,194km(10.1%)の減少、燃料使用量では3,765ℓ(10.8%)の減少となっている。

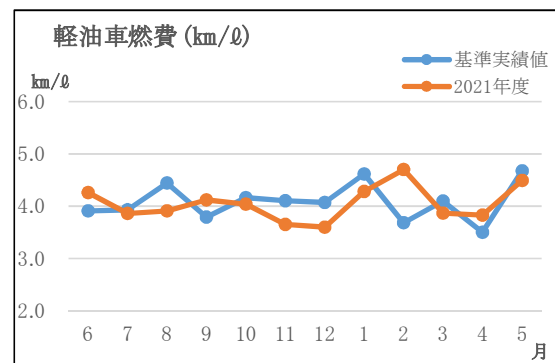


3) 軽油車両の燃費改善

軽油車両全体の燃費改善は、環境経営目標に設定していないが、基準実績値4.04km/ℓに対して実績は1.0%悪化の4.00km/ℓとなっている。

1ℓ当りの走行距離数が小さい強力吸引車の走行距離が増加し、全体でのkm/ℓ値を低下させたことが悪化の原因です。

また、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると走行距離で21,974km(7.1%)燃料使用量では6,418ℓ(8.3%)と共に増加となっている。

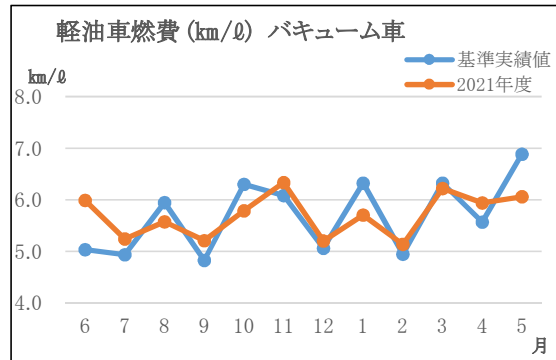


環境経営目標では、4種類の各車種(用途)毎に目標を設定し其々の結果については、次頁のとおりである。

3) -1 バキューム車の燃費改善

環境経営目標は、基準実績値5.62km/ℓの0.6%改善で5.65km/ℓ以上と設定し、実績は1.6%改善の5.71km/ℓと目標を達成した。

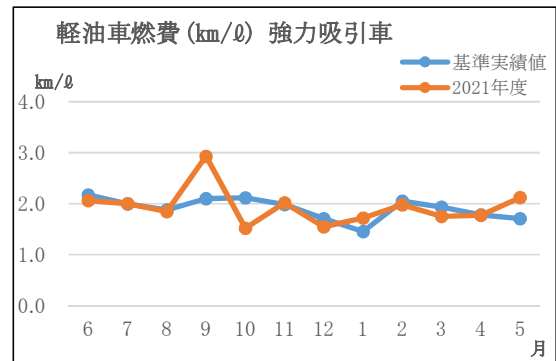
また、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると走行距離は2,872km(2.4%)、燃料使用量では846ℓ(3.9%)の減少となっている。



3) -2 強力吸引車の燃費改善

環境経営目標は、基準実績値1.92km/ℓの0.6%改善で1.93km/ℓ以上と設定したが、実績は1.8%改善の1.95km/ℓと目標を達成した。

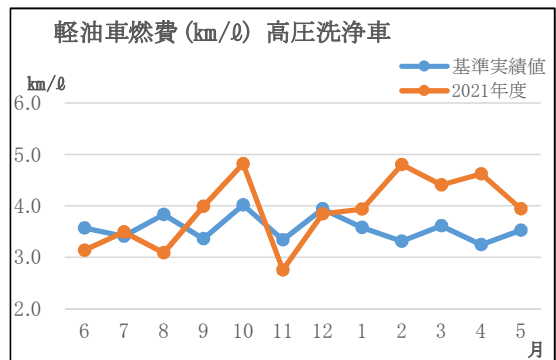
また、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると走行距離で19,135km(37.5%)燃料使用量では9,347ℓ(35.2%)と共に増加となっている。



3) -3 高圧洗浄車の燃費改善

環境経営目標は、基準実績値3.55km/ℓの0.6%改善で3.57km/ℓ以上と設定し、実績は5.0%改善の3.73km/ℓと目標を達成した。

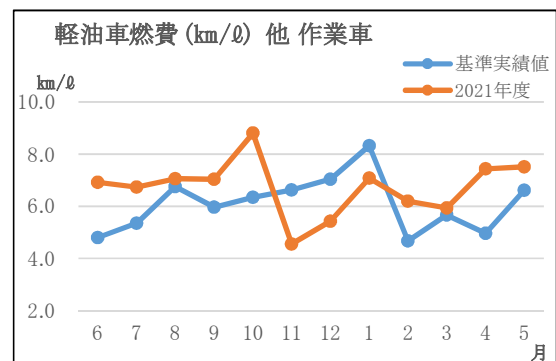
また、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると走行距離で10,970km(22.3%)燃料使用量では3,598ℓ(26.0%)と共に減少となっている。



以上、3) -1 から 3) -3 の車両は作業時もエンジンを動力源とするため、作業環境(移動距離と作業時間)に大きく影響を受ける点を考慮する必要がある。

3) -4 他 作業車の燃費改善

環境経営目標は、基準実績値5.98km/ℓの0.6%改善で6.02km/ℓ以上と設定し、実績は7.8%改善の6.45km/ℓと目標を達成した。



4) 二酸化炭素総排出量

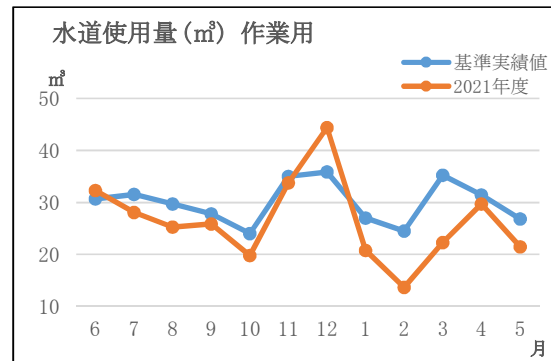
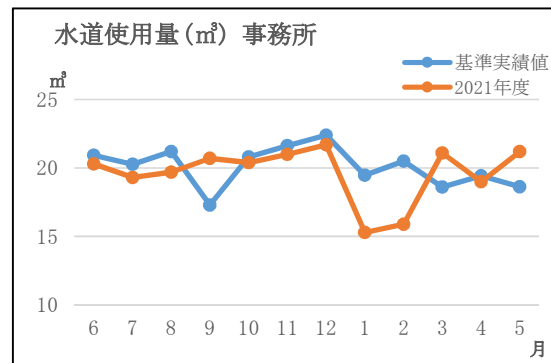
(単位: kg-CO₂)

環境経営目標に設定はしていないが、右表に項目毎の実績を示す。電力・軽油は増加、ガソリン・灯油・LPGは減少となり、全体的には2.9%増加の315,276 kg-CO₂であった。作業車両の燃料である「ガソリン」と「軽油」の使用量が二酸化炭素排出量の90%超を占めることを右に示した表から確認することができる。

二酸化炭素排出由来項目	基準実績値	2021年度	全体比	(▲増 ▼減)
電力	23,442	26,281	8.3 %	▲ -12.1 %
ガソリン	80,559	71,826	22.8 %	▼ 10.8 %
軽油	198,733	215,294	68.3 %	▲ 8.3 %
灯油	3,122	1,454	0.5 %	▼ 53.4 %
L P G	428.0	421.0	0.1 %	▼ 1.6 %
CO ₂ 排出量	306,284	315,276		▲ 2.9 %

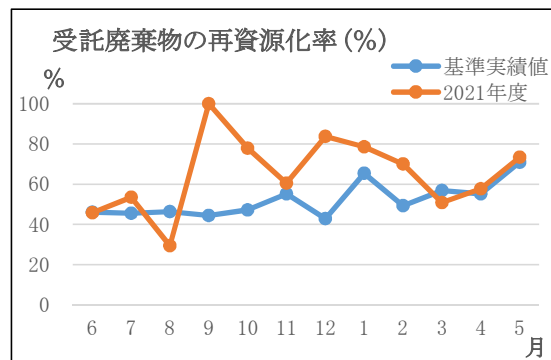
5) 水道使用量の削減

環境経営目標は、基準実績値を基に事務所は241 m³の0.6%削減で240 m³、作業用を360 m³の0.6%削減で358 m³と設定した。実績では事務所で2.1%削減の236 m³、作業用では11.7%削減の318 m³と共に目標を達成した。特に、作業用では「消雪井戸を活用した使用量の削減の推進」に真摯に取り組んだ従事者の努力の成果である。



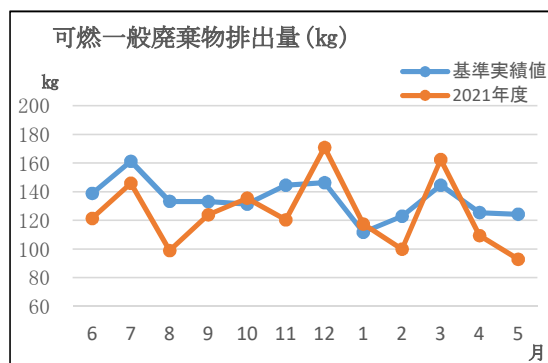
6) 受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進

昨年度より「有機汚泥に特化」した目標を設定し、収集運搬を受託した産業廃棄物の再資源化を推進した。受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の環境経営目標は、基準実績値の再資源化率51.8%に対し、1.5%向上の53.3%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では12.8%向上の64.6%で目標を達成した。



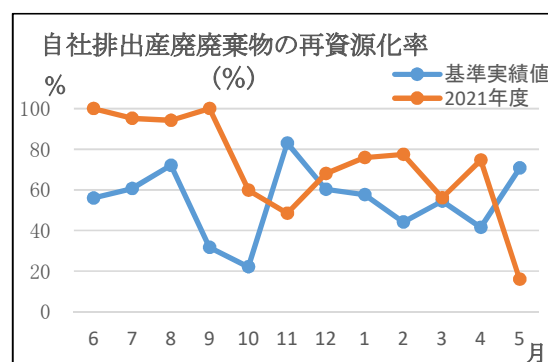
7) 可燃一般廃棄物の排出量の削減

可燃一般廃棄物の排出量に関する環境経営目標は、基準実績値の1,619kgの0.6%削減の1,609kg以下と設定し、実績は7.4%削減の1,500kgで目標を達成した。分別等、日々の取り組みの成果である。



8) 自社排出産業廃棄物の再資源化の促進

自社排出産業廃棄物の再資源化の環境経営目標は、基準実績値の再資源化率52.8%に対し、1.5%向上の54.3%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では12.7%向上の65.5%で目標を達成した。



9) 資格取得の推進

環境経営目標に業務上で必要と認められる資格等について、3人の資格取得を目標とした。結果として5資格で計10人が取得し、大きく目標を達成することができた。今後も資格取得を尚一層、推進します。

10) グリーン購入の推進

環境経営目標には未設定ですが、常に購入を心掛けるとともに今後も継続して取り組みます。

6. 環境経営計画及びその取組結果とその評価

環境経営計画を下表に示しました。環境経営計画の実施状況を4半期ごとに5段階評価により点検を行っており、その評価点の平均を下表に示しました。

評価点の低い活動項目については、更に活動の徹底に努めていきます。

【総務部門】

環境経営計画		点検結果	担当者コメント (2022.6)	環境管理事務局コメント (2022.6)
活動の管理	エコ安全ドライブの周知	5.0	安全運転管理者講習の資料を基に社内研修を実施した。	エコ運転・安全運転への周知と実践に努めて欲しい。
	運転記録簿の管理	4.0		
	安全運転教育の実施	5.0		
	安全運転管理者講習会の受講	5.0	11月10日受講	
電力使用量の削減	空調設定温度 夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	4.0	照明のこまめな消灯と不在時の空調停止を実践。 残業後の退社時での消し忘れ啓蒙のための文書を掲示した。	不在時の空調の停止、照明の消灯を実践していた。 消し忘れ防止啓蒙の掲示物を確認した。
	外出時などパソコンのモニター 電源OFF	5.0		
	昼休み、残業時、外出時など 不要照明のこまめな消灯	5.0		
	照明器具見直し(取り外し、 人感型化、高効率化、LED化等)	4.5		
灯油使用量の削減	灯油暖房温度設定20℃以下	5.0	こまめな温度管理を心掛けた。	無理の無い範囲での節約を心掛けてもらいたい。
ガス使用量の削減	ガス湯沸し器の使用節約	5.0	必要最小限の使用に努めた。	
水道使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	常に水の無駄遣いをしないように心掛けた。しかし、大きな削減には至らなかった。	常に意識して取組んでいるが、削減も限界に近づいている様に感じられる。
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
	水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
可燃一般廃棄物の排出量の削減	両面コピーの徹底 片面コピー済の裏面使用	5.0	コピー済みの裏面の再使用と紙資源の分別に努めた。	コピー済みの裏面の再使用と紙資源の分別に努めた。
	その他紙の分別再資源化の徹底	5.0		
	分別による再資源化を心掛ける。	5.0	再資源化のため、分別を徹底。 (古紙・ダンボール・ペットボトル)	適正に行っていた。
グリーン購入の推進	グリーン商品の情報把握 と積極購入	5.0	購入を心掛けた。	文房具が主となるが、前向きに取り組んでいた。
平均		4.9		

【管理部門】

環境経営計画		点検結果	担当者コメント (2022.6)	環境管理事務局コメント (2022.6)
ガソリン車両及び 軽油車両の燃費改善	エコ安全ドライブの実践			
	・急発進・急加速を避ける。	5.0	エコ運転・安全運転を積極的に啓蒙した。	大きな事故は無いものの、自損事故が発生している。ゆとりを持った運転を心掛け、大きな事故に繋がらないように。
	・ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
	・シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	5.0		
	・一定速度の走行をする。	5.0		
	・経済速度での走行をする。	5.0		
	・不要なアイドリング運転の防止	4.0		
	・過度な空調の使い方をしない。	5.0		
	日常整備			
	・タイヤ圧を適正に保つ	5.0	各自で担当車両の始業前点検を実施。	日々の点検によって不具合を早期に発見することで業務への支障・負担が軽減される。
	・エンジンオイルの適正な管理	5.0		
	作業管理			
・車両の走行は最短経路を選択	5.0	現場に即した車両の選定をし、効率的な使用を心掛けた。	作業内容を理解することで現場に適した車両を使用した効率化を目指していた。	
・運転記録簿の記帳	4.0			
水道使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	上水道と井戸水を使い分けることによる上水道の使用量の削減を推進した。	井戸水を活用することで確実に上水道の使用量を削減できた。
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
	洗車ホースへのストッパーの設置・使用	5.0		
	水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
	積極的に井戸水を活用する。	5.0		
可燃一般廃棄物の排出量の削減	分別による再資源化を心掛ける。	4.0	再資源化のため、分別を徹底。 (古紙・ダンボール・ペットボトル)	適正に行っていた。
化学物質の適正使用及び管理	購入のチェックと毎月末の棚卸	5.0	月毎に購入量と在庫をチェック。	適正に行っていた。
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	維持管理業務での分別による再資源化の徹底	5.0	再資源化のため、分別を徹底。 (金属類・ダンボール)	適正に行っていた。
	建設現場毎での分別による再資源化の徹底	5.0	再資源化のため、分別を徹底。 (金属類・廃プラ・ダンボール)	適正に行っていた。
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進	5.0	資格取得を積極的に啓蒙した。	努力が結果となっている。
平均		4.9		

【環境整備部門】

環境経営計画		点検結果	担当者コメント (2022.6)	環境管理事務局コメント (2022.6)
軽油車両の燃費改善 (バキューム車等の燃費改善)	エコ安全ドライブの実践			
	・急発進・急加速を避ける。	5.0	日々エコ運転を心掛けて作業に従事しているが、主に使用する車両の特性から燃費改善が厳しい状況になってきた。	燃費改善の目標達成が年々厳しい状況の車両もあるが、前向きに取り組んでいる。
	・ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
	・シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	5.0		
	・一定速度の走行をする。	5.0		
	・経済速度での走行をする。	5.0		
	・不要なアイドリング運転の防止	4.0		
	・過度な空調の使い方をしない。	5.0		
	日常整備			
	・タイヤ圧を適正に保つ	5.0	担当者の始業前点検を継続して行った。	車両故障が業務の支障となるので未然防止に努めて欲しい。
	・エンジンオイルの適正な管理	5.0		
	・ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	5.0		
	作業管理			
・車両の走行は最短経路を選択	5.0	作業場所・作業内容・人員の配置を従事者に事前の周知徹底を励行した。	現場作業の従事者が余裕を持って準備を出来る早めの段取りを実践していた。	
・運転記録簿の記帳	4.0			
水道使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	上水道と井戸水を使い分けることによる上水道の使用量の削減を推進した。	井戸水を活用することで確実に上水道の使用量を削減できた。
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
	洗車ホースへのストッパーの設置・使用	5.0		
	水漏れがないことを定期的を確認	5.0		
	積極的に井戸水を活用する。	5.0		
受託産業廃棄物 (有機汚泥) の再資源化の促進	・再資源化を行う処理業者がある場合は、再資源化を行う業者に処理委託するよう排出者に紹介することに努める。	5.0	中間処理業者へ再資源化への働きかけを継続。	中間処理業者に再資源化についての働きかけを継続している。
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	分別による再資源化を心掛ける。	4.0	再資源化のため、分別を徹底。	適正に行っていた。
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進	4.8	資格取得を積極的に推進した。	取得資格を有効に活用して欲しい。
平均		4.8		

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり全て遵守していることを確認しました。

なお、過去3年間、法令違反等について行政当局からの指摘もなく、また、住民等からの苦情や訴訟も皆無です。

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
家電リサイクル法	再商品化する者に適切に引渡し、料金の支払に応じる。	適合
小型家電リサイクル法	分別して排出し、認定業者等確実に運搬・再資源化できる者に引き渡す。	適合
建設業法	営業所を管轄する知事に許可申請を行う。	適合
建設リサイクル法	建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用するよう努める。	適合
自動車リサイクル法	自動車の所有者は、使用済み自動車を引取業者に引き渡す。 使用済自動車のリサイクルに要する費用を負担する。	適合
水質汚濁防止法	水質事故時は、応急措置を実施し事故の状況及び講じた措置の概要を知事に届け出る。	適合
浄化槽法	設置または構造等の変更をしようとするとき届け出る。 保守点検、清掃の技術上の基準に従って行う。 年1回以上水質に関する検査を受ける。(法第11条検査) 業を行う区域の知事(政令市長)に届け出る。(工事業者(特例業者)) 業を行う区域の市町村長の許可を受ける。(浄化槽清掃業)	適合
毒物及び劇物取締法	容器に「医薬用外毒物・劇物」の表示 飛散、漏えいしない専用の設備で、鍵のかかる場所に保管する 営業所を管轄する保健所に登録する。(毒物劇物一般販売業)	適合
PRTR法	指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報(安全データシート)の提供(受領)	準用
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	1) 収集運搬または処理の委託 産業廃棄物の収集運搬または処理については許可業者に委託。 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は産業廃棄物の種類ごとに交付する。 管理票の保存期間(排出事業者)A票、B2票、D票、E票 :5年保存する。	適合
	交付後90日以内に収運・中間処分の回付がない又は180日以内に最終処分終了の管理票の送付がないときは報告する。 前年の管理票交付等状況報告書を6月末までに提出する。 虚偽の記載をして管理票を交付しない。	適合
	2) 収集運搬業の許可 知事の許可を受ける 水銀使用製品産業廃棄物を含む。	適合
	3) 収集運搬の受託 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は産業廃棄物の種類ごとに交付を受ける。 管理票の保存期間(収集運搬業者)B1票、C2票 :5年保存する。 前年の収集運搬実績報告書を6月末までに提出する。	適合
	業務に起因する危険性又は有毒性等を調査し、危険又は健康障害を防止するための措置を講ずるよう努める。 対象物質(通知物質等)についてリスクアセスメントの実施 雇入れ時に従事する業務に関する安全または衛生の教育を行う。 健康診断の実施	適合

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
騒音規制法	特定建設作業の届出(指定地域内)	適合
	騒音規制基準の遵守(指定地域内)	
振動規制法	特定建設作業の届出(指定地域内)	適合
	振動規制基準の遵守(指定地域内)	
大気汚染防止法	解体工事の元請業者は、特定工事に該当するかを調査し、その結果を発注者に説明すること。	適合
石綿障害予防規則	事業者は、建築物の解体等の作業を行うときは、石綿等の使用の有無を調査しなければならない。	適合
フロン排出抑制法	第1種特定製品の定期点検・記録(7.5kw未満につき簡易点検)を実施する。	適合
	第1種特定製品の廃棄時の引取り証明書の写しの交付(廃棄物処理業者への引渡し時)	
オフロード法	特定特殊自動車は基準適合の表示等がなければ使用してはならない。	適合
新潟県(市)浄化槽保守点検業者の登録に関する条例	知事(政令市長)の登録を受ける	適合
	浄化槽管理士は登録有効期間内に1回、研修を受講する。	
	営業所ごとに条例で定める標識を掲示する。	
	営業所ごとに条例で定める帳簿を備え保存する。	
建築物における衛生的環境の確保に関する法律	知事の登録を受ける	適合
	清掃作業の基準に従って行う。	
	前年の実績を6月末までに報告する。	
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	産廃処分委託業者の施設稼働状況を確認・記録する。	適合
	不適正処分時の搬入停止・報告等をする。	
新潟県生活環境の保全等に関する条例	特定施設の設置届(指定地域内)	適合
	特定施設、特定建設作業の騒音規制基準の遵守(指定地域内)	
新発田地域広域事務組合 火災予防条例	少量危険物の貯蔵の届出(指定数量の1/5以上指定数量未満の危険物)	適合
	必要な措置を講じる等の貯蔵、取扱いの基準を遵守する。	

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

2021年度の環境経営の取り組みについて、代表者による全体の評価及びこれを踏まえた見直しに係る指示事項は以下のとおりです。

	点検項目	改定の必要性	指示の内容
見直しに係る指示事項	環境経営方針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営方針を維持し、取り組むこと。
	環境経営目標	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営目標を維持し、取り組むこと。
	環境経営計画	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営計画を維持し、取り組むこと。
	環境経営システム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	環境経営システムマニュアル(改訂)の運用に努めること。
	環境経営実施体制	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の実施体制を維持し、更に全員参加を進めること。
代表者コメント	<p><u>全体の評価</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年度では「電力使用量の削減」と「軽油車(強力吸引車)の燃費改善」の2項目について環境経営目標が未達成であったが、2021年度では「電力使用量の削減」の1項目が未達成となった。 <p>未達成の主な要因として、「水道使用量(作業用)の削減」に関連した消雪井戸の活用と冬季の消雪での井戸ポンプの稼働が電力使用量を大きく左右したことが予想され、その点については対応が苦慮されるところであるが、従事者の日々取り組む努力を評価したい。</p> <p>また、2022年度以降に計画していた新たな業務の実現化に向けて着々と準備を進めているところであるが、その点を含めて今後の推移を見守りながら全員参加による環境経営目標の達成に向けて引き続き取り組んでもらいたい。</p> <p><u>指示事項</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現行の取組みを維持し、なお一層の推進に努めること。 ② 積極的な資格取得の推進に努めること。 ③ グリーン購入については、環境経営目標として設定はしないが、今後も継続して購入に務めること。 		

9. 次年度の環境経営目標

電力に係わる二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用

項 目	単 位	基準実績値 (過去3箇年平均)	目 標 値				
			(△ 増加・▽ 削減)				
			2020年度	2021年度	2022年度		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh	44,397	44,264	44,131	43,997	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	13.15	13.19	13.23	13.27
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		全 体	km/ℓ	(4.04)	(4.05)	(4.06)	(4.07)
			改善率				
		バキューム車	km/ℓ	5.62	5.64	5.65	5.67
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		強力吸引車	km/ℓ	1.92	1.93	1.93	1.94
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		高圧洗浄車	km/ℓ	3.55	3.56	3.57	3.58
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		他 作業車	km/ℓ	5.98	6.00	6.02	6.03
			改善率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%
		二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	306,285	-	-
水道使用量の削減		全 体	m ³	(601)	(599)	(597)	(596)
	削減率						
	事 務 所	m ³	241	240	240	239	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	作 業 用	m ³	360	359	358	357	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進	再資源化率	51.8	52.8	53.3	53.8		
	%		△ 1.0%	△ 1.5%	△ 2.0%		
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	再資源化率	52.8	53.8	54.3	54.8		
	%		△ 1.0%	△ 1.5%	△ 2.0%		
可燃一般廃棄物の排出量の削減	kg	1,619	1,614	1,609	1,604		
	削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%		
資格取得の推進	取得者数	-	3	3	3		
	人						

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正使用及び管理に努める。
 2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
 3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
 4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
 5. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に努める。
 6. 基準実績値(過去3箇年平均)とは、2017年度～2019年度(6月～翌年5月)である。

10. 次年度の環境経営計画

次年度の環境経営計画は、本年度の同計画を継続して実施します。
また、これに加え代表者による全体の評価と見直しの結果、以下の3点について指示がありました。
その実現に向け、計画に基づいて活動を進めます。

- ① 現行の取組みを維持し、なお一層の推進に努めること。
- ② 積極的な資格取得の推進に努めること。
- ③ グリーン購入については、環境経営目標として設定はしないが、今後も継続して購入に努めること。

部門名：総務部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時期	責任者
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	8月	本間
		運転記録簿の管理	通年	
		安全運転教育の実施	8月	
		安全運転管理者講習会の受講	7月	
二酸化炭素の削減	電力使用量の削減	空調設定温度:夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	冷暖房時期	菱田
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	通年	
		外出時などパソコンのモニター電源OFF	通年	
		照明器具見直 (取り外し、人感型化、高効率化、LED化など)	通年	
	灯油使用量の削減	暖房温度設定20℃以下	暖房時期	
	LPガス使用量の削減	湯沸し器の使用節約	通年	
水道使用量の削減		蛇口への節水シールの貼付	通年	岩淵
		手洗い水使用の無駄の排除	通年	
		水漏れがないことを定期的に確認する。	通年	
可燃一般廃棄物の排出量の削減		両面コピーの徹底・片面コピー済の裏面使用	通年	宮部
		その他紙の分別再資源化の徹底	通年	
		分別による再資源化を心掛ける。	通年	
グリーン購入の推進		グリーン商品の情報把握と積極購入	通年	中野(夏)

部門名： 管理部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブの実践	エコ安全ドライブの実践		吉川
		急発進、急加速を避ける。	通年	
	ガソリン使用車両の燃費改善	ふんわりアクセルを心掛ける。	通年	
		シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年	
	軽油使用車両の燃費改善	一定速度の走行をする。	通年	
		経済速度での走行をする。	通年	
		不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
		過度な空調の使い方をしない。	通年	
		日常整備		
		タイヤ圧を適正に保つ	通年	
	遠藤	エンジンオイルは適正に管理する。	通年	
		作業管理		
		営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年	
	阿部	運転記録簿の記帳	通年	
水道使用量の削減		蛇口への節水シールの貼付	通年	長谷川
手洗い水使用の無駄の排除	通年			
水漏れがないことを定期的に確認する。	通年			
積極的に井戸水を活用する。	通年			
可燃一般廃棄物の排出量の削減	分別による再資源化を心掛ける。	通年	清野	
化学物質の適正使用及び管理	購入量のチェックと毎月末の棚卸	通年	仲村	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	維持管理業務での分別再資源化の徹底	通年	藤井	
	建設現場毎での分別再資源化の徹底		大倉	
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進に努める。	通年	大沼	

部門名：環境整備部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時期	責任者		
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブの実践	エコ安全ドライブの実践		中野(太)		
		急発進、急加速を避ける。	通年			
		ふんわりアクセルを心掛ける。	通年			
		シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年			
		一定速度の走行をする。	通年			
		経済速度での走行をする。	通年			
		不要なアイドリング運転を防止する。	通年			
		過度な空調の使い方をしない。	通年			
	ガソリン使用車両の燃費改善	日常整備		小林(慎)		
		タイヤ圧を適正に保つ	通年			
		エンジンオイルは適正に管理する。	通年			
		ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	通年			
		作業管理	営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択		通年	大江(亮)
			運転記録簿の記帳		通年	
			水道使用量の削減		蛇口への節水シールの貼付	
手洗い水使用の無駄の排除	通年					
水漏れがないことを定期的に確認する。	通年					
積極的に井戸水を活用する。	通年					
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進	再資源化を行う処理業者がある場合は、再資源化を行う業者に処理委託するよう排出者に紹介することに努める。	通年	渡部			
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	分別による再資源化を心掛ける。	通年	小池			
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進に努める。	通年	諏訪			